

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2373900469		
法人名	有限会社 愛敬		
事業所名	グループホームみどり	1階	
所在地	愛知県稲沢市北島5丁目55番地		
自己評価作成日	平成28年 8月23日	評価結果市町村受理日	平成29年 1月10日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/23/index.php?action_kouhyou_detail_2016_022_kani=true&JkyosvoCd=2373900469-00&PrefCd=23&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 中部評価センター		
所在地	愛知県名古屋市長区左京山104番地 加福ビル左京山1F		
訪問調査日	平成28年11月 4日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ショッピングや喫茶店、花見やボーリングなど利用者様一人ひとりの希望に沿った外出支援を行っています。利用者様の趣味を活かして塗り絵コンクールに出展するなど、社会とのつながりを大切にした支援を行っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事務長と管理者が相互に分担・協力して運営にあっており、毎回評価調査には両者が立ち合っている。今夏、利用者の骨折事故や重度化の進行から介護現場がパニック状態になり、職員に過度な負担が及んだが、事務長・管理者の努力により無事終息も見えてきた。現場の責任者として職員の意見・要望を経営陣に伝える役割を担っており、職員から、「きちっと聞いてくれ、意見・要望が言い易い」との言があった。経営法人も理解を示し、職員からの意見・要望により浴室の改装や電動ベッドの導入等が実現した。今年度、機械浴槽の導入も予定されている。職員の提案により、今年度から認知症の進行を遅らせる等の効果を期待して「大人の教室」が導入された。朝食後の一時、利用者全員を集めてテキストを用いた頭の体操を行っている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝の申し送りの時間に職員は、運営介護方針と理念を声に出して読み確認をしています。	過去から一貫して毎朝礼時において、事業所理念と法人の運営方針の唱和を実施しており、高齢者介護に向ける意識の徹底振りがうかがえる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	隣家に回覧版を利用者様と届けています。近所の喫茶店に出掛けています。町内の清掃活動に利用者様と一緒に参加しています。	田園に囲まれた地にあり、日中でも人通りは少ないが、町内会に加盟し、地域行事には利用者と共に積極的に参加している。近隣農家から隣接地を借用して季節野菜を育て、食卓に彩りを添えている。	氏神社の祭りにおける子供神輿を招聘し、利用者にお菓子配り等の奉仕体験をさせる取り組みを提案したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議で情報提供をしています。施設外で介護セミナーを開催させていただきました。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	毎回職員、利用者様の状況、活動状況を報告し、評価をいただいています。利用者様がよりよい生活を送れるよう「ウナギを食べに連れて行けないか。」など、具体的に助言をいただき実際の支援に生かすことができています。	市・地域包括支援センター職員、地区代表、利用者・家族等を招いて開催している。ホームの実状、活動報告、行事計画が主議題であり、形骸化がみられるが、会議メンバーからは有益な意見・要望、助言等がある。	参加者からの意見・要望、助言等、今後の運営に関係するような発言があった場合には、会議記録に残し、併せて対処内容を記載しておくことを望みたい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	利用者様の対応など施設内で解決できない相談など、事務長、管理者が市役所、地域包括支援センター等と連絡を取り情報共有をしています。	運営推進会議に市・担当職員は毎回、地域包括も2回に1回は出席しており、ホームの実状は随時伝わっている。特に地域包括とは頻繁に情報交換を行っており、入所打診や空室補充に関して協力関係にある。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員はおおむね身体拘束について理解できています。広い道路が近くにあるので安全を考慮して玄関の鍵は施錠しています。	経験の浅い職員も多いが、身体拘束による弊害は理解しており、「拘束をしないケアの実践」を目指している。表玄関内の事務室に在席している場合は玄関扉を開放しており、階段、内扉は常に開放している。スピーチロックに陥ることもあるが、その場で注意している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待が起きないように職員一人一人が努めています。もっと詳しく学ぶ機会があるといいと職員より意見がありました。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	制度について詳しく理解している職員は少ないですが、制度を利用されている利用者様がいることは全員が把握できています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	管理者が窓口になっており、管理者より利用者様、ご家族様に十分な説明をさせていただいています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議で利用者様、ご家族様から直接要望を聞く機会があり、ご家族様から「外出時同行したい。」と希望をいただき支援できるようにしています。	運営推進会議や年2回の家族会、家族面接などの機会を捉え、意見・要望を聞き出している。家族意見で採用した「名前入りエプロン」は現在も続いている。ホーム便りによる情報提供も、家族には好評である。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月全体ミーティング、ユニットミーティングで職員から意見や提案があり、電動ベッドの導入などがされています。	各階ミーティングや職員全体会議で様々な意見・要望・提案が出ている。浴室の改造、シャワーチェア、電動ベッドの導入等が実現した。年度末を目途に機械浴槽の導入が決定しており、経営者側の姿勢を評価できる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	有給休暇をとりやすい環境です。キャリアパス制度があります。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員は実践者研修などを受けています。介護技術などの社内研修も行われています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	今は出来ていませんが、今後他施設と交換研修、交流をしていく予定があります。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	職員は利用者様が生活に馴染めるよう気にかけて関係づくりに努めています。私の気持ちシートを貼り出し職員はアセスメントを行い、情報を共有できるようにしています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	管理者が入所前の面談時や入所直後の時にご家族様と話しをして関係づくりに努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	私の気持ちシートを貼り出し職員はアセスメントを行い情報を共有し、サービス計画書に反映させています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	食器拭きや掃除、洗濯物たたみなど、利用者様にお任せするのではなく、職員も一緒に行い、利用者様の「できない部分」を自然なかたちでフォローしています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	管理者が窓口になり、ご家族様が面会に見えた時に利用者様の様子をお伝えしています。今後どうしてほしいかなどの意向も確認しています。体調変化があるときは必ず連絡をしています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	なじみの喫茶店で知人との再会があったり、施設に配達に来るお肉屋さんが知人だったり、元同僚や親戚の方が面会にみえる等交流があり、関係が途切れないよう支援に努めています。	元同僚がボランティアで訪問し、以降仲間を連れて訪れるようになった。友人・知人の来所時には呈茶し、交流が継続できるように支援している。公営ギャンブル好きの利用者の希望実現に向け、日程を調整をしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士の相性を考慮して席に座って頂いたり、「おとなの学校」などのレクリエーションを通じて他者と関わり、支えあえるよう支援をしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	最近相談を受けていませんが、相談があるときは、その都度対応しています。退所時にはお声掛けをしています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	全体ミーティング、ユニットミーティングが毎月あり、利用者様一人ひとりのケアの確認と意向や希望、今後のケアの方針を検討しています。	利用者の些細な声にも耳を傾け、「気持ちを聞く」ことで思いの把握に繋げている。入浴時の対一の対応時に、心を開いている機会を捉えて語りかけ、思いを汲み取るようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	野球観戦が好きな方、絵が趣味の方、競馬が好きな方、新聞を読むことが日課の方、自営業だった方、兄弟が多い方、一人暮らしが長かった方など利用者様一人ひとりについて職員は把握し、ケアの中に活かしています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員は、業務日報、個別記録に利用者様のその日の体調、心身の状態を「今日のつづやき」として記入し、情報共有しています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	絵を描くことや、毎日の外出など利用者様本人の希望に沿ったサービス計画書になっています。	モニタリングと介護計画の見直しを6ヶ月毎に行っている。「ケアプラン・モニタリング評価・確認票」に利用者の思いや家族の意見等を記入し、カンファレンスで検討して介護計画に反映させている。	介護計画の達成度をグラフで示して支援に活かしている点は評価できる。今後、全員に対して日常的に行う項目は計画から外し、支援項目を絞った計画作りを提案したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	職員は、業務日報、個別記録に利用者様のその日の体調、心身の状態を「今日のつづやき」として記入し、情報共有しています。定期的なモニタリング、評価時に見直しを行い、サービス計画に活かされています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	シャワーチェアを導入し浴室の扉をカーテンに換えたり、テレビはインターネットに接続できるようになり、時代劇やリハビリ体操などすぐに観られるようになりました。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ヤクルトの定期購入やスポーツ新聞の配達、なじみの喫茶店への外出などの支援を行っています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	内科、皮膚科、眼科、歯科の定期往診があります。	今年、内科協力医が変更になったが、従前通り2週に1度往診を受けており、現在全員が協力医をかかりつけ医に選んでいる。皮膚科・眼科は月1回、歯科は週1回の往診もある。他科受診は家族対応が原則となる。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護師へ利用者様の状態を常時連絡・報告を行い情報を共有しています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	稲沢地域 看護・介護研究会の看護・介護サマリーを利用し、円滑に情報が共有できるように努めています。利用者様が入院された際はご家族様、担当の相談員と連絡をとり利用者様の認知症の状態が悪化しないよう身体的回復も考慮して、退院の相談をしています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご家族様、主治医、訪問看護師と話し合い、施設でできる看取りの在り方を説明しており、共有できています。	本人・家族の意向があれば、医療的ケアや延命措置をしない条件で看取りを行う方針であり、現在3名が重度化した状態にある。一部職員からは不安の声も上がっているが、主治医・家族・職員が連携し、自然な形で終末期を迎えられるように取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルがあり、職員は共有できていますが、実践力を身につけるための定期的な訓練は行えていません。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	マニュアルがあり、職員は共有できています。定期的に避難訓練があり実践力を身につけています。	年2回(1回は消防署立ち合い)の通報訓練・避難訓練・初期消火訓練を実施している。消防署から、非常ドアの前に物を置かない等の指導を受けている。地域の防災訓練には職員が参加して意識を高めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員は利用者様の居室に入る際ノックをして声掛けを行うなど、入居者様を尊重して接するよう努めています。	異性介助を拒否する利用者には無理強いせず、同性介助に切り換える等、柔軟に対応している。居室等への入室時には必ずノックし、声掛けしてから入室している。入浴は個浴を基本とし、羞恥心にも配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	レクリエーション参加中に「居室に戻りたい。」など、その時の利用者様の気持ちや希望に応じて支援しています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食器拭きなどの家事を優先するのではなく、描きたい絵を描きたいときに描いていただく等、利用者様がその人らしい生活を過ごせる様支援しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者様は職員と買い物に出掛け、ご自分の好みの服を購入しています。外出時は化粧をされ好みの服を着て出掛けられています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者様と職員と一緒にメニューを考えています。利用者様と買い物と一緒に出掛けしています。定期的におやつ作りをしています。	献立を利用者と共に考え、調理専門職員が調理をしている。重度化に伴い食事風景が淋しくなって来たが、元気に食器を拭く利用者の姿もあった。職員が1口ずつ「〇〇ですよ」と説明しながら食事介助をしていた。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取表、水分摂取表があり記入をしています。糖尿病の方でご飯の量が決まっている方もいます。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ガーゼや舌苔ブラシ、電動歯ブラシや歯間ブラシを使用して利用者様の状態にあったケアを行っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表に記入をして、利用者様の排泄時間を把握し、一人ひとりの排泄時間にあわせてトイレ誘導とおむつ交換を行っています。	トイレでの排泄を基本に、排泄チェック表を活用してトイレ使用時間帯・パッドが濡れている時間帯等の統計を取り、個々に合わせて支援している。おむつが濡れっぱなしで入所した利用者が、トイレでの排泄に改善した。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	薬による排便コントロールと体を動かして頂ける体操を毎日支援しています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	昼食後から夕食前までの時間に行っていますが、たくさん汗をかかれたり、汚してしまったときなど、日中は出来るだけ希望に沿うように努めています。	4日に1回の入浴が基本である。重度化対策として、内扉を外してカーテンに付け替え、シャワーチェアの取り扱いがし易い動線になったことで、利用者への負担も軽減した。本年度、機械浴槽の導入を計画している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	エアコンを使用し室温調整しています。寝たきりの方は体位交換を行っています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個別ファイルに処方箋が入っています。薬の変更時は申し送りを行い利用者様の様子を詳しく記入しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	野球観戦が好きな方、絵が趣味の方、競馬が好きな方、新聞を読むことが日課の方、自営業だった方、兄弟が多い方、一人暮らしが長かった方など利用者様一人ひとりについて職員は把握し、馬券の購入、飲酒、外出支援を行っています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	個別では毎年大阪に住んでいる親戚に会いに行かれる利用者様がいます。普段はショッピングセンターやスーパー、喫茶店に出掛けています。年2回遠足がありご家族様も長嶋温泉、イチゴ狩り、なばなの里に出掛けています。遠足以外にも利用者様の希望があり温泉などに掛かっています。	日常的には散歩や買い物、喫茶店に引率して気分転換を図っている。本年から「大人の学校」を開始したため、外出支援の時間が減ったが、定期的に遠足行事を企画し、温泉や花見等に出かけている。年末には名古屋港水族館の見物を予定している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご自分で管理できる方は外出時にご自分で支払いをされています。温泉や花見に出掛けたときはお土産を買われています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	毎月みどりだよりに字が書ける利用者様は、ご自分で近況を書いていただいています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節ごとの壁飾りを利用者様と職員で作成して飾っています。季節の塗り絵を描いて展示しています。	田園に囲まれ、稲田越しに新幹線が望める風景は季節感と安らぎが実感できる。訪問時、稲刈りが終わった稲田からは晩秋を感じることができた。1階通路には絵心のある利用者の描いた風景画が常時展示しており、移り行く季節が感じられる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファーでは気の合う利用者様同士過ごして頂いています。独りが落ち着く方のために一人で過ごせるように向き合わない席を作っています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者様はご自分の居室にご家族の写真を飾られたり、好みのマットレスや使い慣れたタンスを置かれています。	ベッドと衣装整理箱が置かれただけの殺風景な居室が多いが、馴染みの筆筒や姿見、小型の仏壇やラジカセ等を持ち込んだ居室もある。日中はリビングで過ごすため、居室作りは家族の思い・配慮により差異がある。	たとえ就寝のためだけの居室であっても、居心地良く過ごすために、家族に協力を依頼して「その人らしい」居室づくりを進めてもらいたい。
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	転倒の危険がある利用者様の居室にフットセンサーを使用して転倒防止に努めています。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2373900469		
法人名	有限会社 愛敬		
事業所名	グループホームみどり 2階		
所在地	愛知県稲沢市北島5丁目55番地		
自己評価作成日	平成28年 8月19日	評価結果市町村受理日	平成29年 1月10日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kai.gokensaku.jp/23/index.php?action_kouhvu_detail_2016_022_kani=true&JiyousoCd=2373900469-00&PrefCd=23&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 中部評価センター		
所在地	愛知県名古屋市長区左京山104番地 加福ビル左京山1F		
訪問調査日	平成28年11月 4日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

リハビリ体操や塗り絵、おとなの学校、広告や新聞を利用者様と一緒に読みながら談笑して過ごすなど、個別に対応したサービスを行っています。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

(外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点)

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者や職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝の申し送りの時間に職員は、運営介護方針と理念を声に出して読み確認をしています。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	利用者様は職員と喫茶店へ出掛けたり、グラウンド清掃やグラウンドゴルフに参加されています。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議で情報提供をしています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	毎回職員、利用者様の状況、活動状況を報告し、評価をいただいています。利用者様がよりよい生活を送れるよう「ウナギを食べに連れて行けないか。」など、具体的に助言をいただき実際の支援に生かすことができています。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	利用者様の対応など施設内で解決できない相談など、事務長、管理者が市役所、地域包括支援センター等と連絡を取り情報共有をしています。地域行事や運営推進会議などを通じて市、総代区長、区長などと連絡、意見交換しています。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員全員理解していますが、玄関のカギは身体障害者施設の事件もあり、安全のため施錠しています。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	職員は虐待防止に努めています。毎月のミーティングで利用者様の対応を話し合い、具体的な話し合いは出来ていますが、法律などの詳しいことを学ぶ機会があるといいと意見が出ています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	一部の職員は理解できています。制度を利用されている利用者様もいます。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	管理者が窓口になって行っていますが、職員に周知されていません。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	サービス計画書に意見、要望を取り入れサービスを提供することができています。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月全体ミーティングとユニットミーティングがあり、職員の意見や提案が反映されています。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	ミーティングで意見や提案をしても施設長が施設にいることが少ないのでなかなか職場の環境整備が行われません。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月ユニットミーティングと全体ミーティングで利用者様全員の対応を確認しています。社内研修では介護技術のビデオ研修を行っています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	今は出来ていませんが、今後他施設と交換研修、交流をしていく予定があります。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	職員は面談時のアセスメントと利用者様の状態が違い戸惑うことがありますが、利用者様が安心して暮らせるよう努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	管理者が窓口になって行っていますが、職員に周知されていません。情報が伝わりにくい状況です。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	管理者が窓口になって行っていますが、職員まで詳しい内容が伝わりにくい状況です。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は利用者様と一緒に過ごしているという感覚でケアを行っています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員だけで利用者様を支えるのではなく、必要なときはご家族様の協力を得て、食事介助などをしていただいています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	全利用者様ではありませんが、今まで通っていたお店や喫茶店に出掛ける事が出来ています。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様はお互いに気遣う関係が出来ています。コミュニケーションがとりにくい方は職員が間に入って孤立しない生活を過ごせています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	最近相談を受けていませんが、相談があるときは、その都度対応しています。退所時にはお声掛けをしています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	全職員は全利用者様について理解、把握し、状態が変わったときはミーティングで検討対応しています。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	職員は、将棋やハモニカ、歌などの趣味や若い頃の職業や苦労話を聞いて、利用者様一人ひとりの生活歴や趣味を把握しケアを行うことが出来ています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員は利用者様のその日の体調や精神状態を理解し対応しています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者様本人、ご家族様はもちろんですが、介護支援専門員だけではなく、看護師、医師、職員からの意見も聞いてサービス計画書を作成しています。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	職員は、業務日報、個別記録に利用者様のその日の体調、心身の状態を「今日のつぶやき」として記入し、いつもと違う様子を記入することが出来ていてサービス計画書見直し時に活かされています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	最近はありませんが、その都度生まれるニーズに今までは対応し取り組んできました。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	利用者様が今まで通っていた喫茶店に出掛けています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	内科の定期往診だけでなく、皮膚科、眼科、歯科など利用者様、ご家族様の要望を受けて往診が受けられます。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護ステーションより週2回看護師の訪問があります。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	稲沢地域 看護・介護研究会の看護・介護サマリーを利用し、円滑に情報が共有できるように努めています。利用者様が入院された際はご家族様、担当の相談員と連絡をとり利用者様の認知症の状態が悪化しないよう身体的回復も考慮して、退院の相談をしています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	訪問看護師、各専門医、PTも交えて話し合いご家族と相談し、主治医からご家族様に直接利用者様の状態の説明をもらい、施設でできる事の説明を管理者より行い、支援に取り組んでいます。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の連絡や対応は全職員が理解していますが、職員の技術に差があります。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	職員は利用者様と一緒に定期的に避難訓練を行っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員は利用者様を尊重し、言葉遣いや対応を工夫してケアをしています。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	お手洗いなど利用者様の気持ちを確認し自己決定できるように働きかけています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様の生活リズムに合わせて食事を提供するなど、希望に沿った支援をしています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	化粧をしたり好みの服を買いに出掛けられるよう支援しています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者様と職員と一緒にメニューを考えています。飲み込みの悪い方には刻み食やミキサー食などを提供しています。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取表、水分摂取表があり記入をしています。ジュースや紅茶など理利用者様一人ひとりの好みのもを提供しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ガーゼや舌苔ブラシ、歯間ブラシを使用して利用者様の状態にあったケアを行っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	出来るだけトイレで排泄できるようおむつの方でもその時の状態に合わせてトイレ介助を行っています。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水素水を飲んでいただいたり、ヨーグルトを食べていただく等薬に頼らないよう工夫しています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	失禁や汗をかかれたときはその都度シャワー浴を行っています。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	疲れがみられるときは居室で休んでいただく等その時の利用者様の状態を把握して支援をしています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個別ファイルに処方箋が入っています。全職員が把握できているとは言えません。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	将棋やハモニカ、歌などの趣味や若い頃の職業や苦労話を聞いて利用者様の生活歴や趣味を把握し、馴染みの喫茶店に出掛けたりおとなの学校や塗り絵など利用者様一人ひとりの好きなもの、楽しみを理解して支援をしています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者様が行きたい喫茶店や行きたい店に行ける様支援しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご自分で管理できる方は外出時にご自分で支払いをされています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	自己管理できる方は、ご自分で携帯電話を持っていただいてご家族様と直接連絡をとられています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節ごとの壁飾りを利用者様と職員で作成して飾っています。季節の塗り絵を描いて展示しています。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファーでは気の合う利用者様同士過ごして頂いています。独りで過ごせるその方の指定の場所があります。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家で使っていたものを持ってきて頂き利用者様が使い慣れた家具や日用品を使っています。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレに手すりを取り付けたり、居室の前に表札があります。		